



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター 広報誌

おひだより

Take
free

Osaka International Cancer Institute

Vol. 002

2021 Early spring

各診療科のご紹介

★ CONTENTS

- 02 病院長あいさつ
- 03 部門のご紹介「リハビリテーション科」
- 04 部門のご紹介「形成外科」「IVR科」
- 05 「9時ミキシング（薬剤混和）点滴予約枠」について
“フローズングローブ” “フローズンソックス” をご活用ください
- 06 乳癌術後放射線治療患者に対する女性技師対応時間設定について
寄附のご報告
- 07 栄養管理室だより
「入院食への新たなる取り組み～安心・安全な食材の提供～」
はい、こちら「がん相談支援センター」です
「医療費が高額になるときは、どんな制度が利用できる？」
- 08 メディア掲載情報



病院長あいさつ

大阪国際がんセンター 病院長 左近 賢人

新型コロナウイルスが猛威を振るっており、先が見通せない状況が続いています。社会のシステム全てが様変わりした状況です。当センターは一般急性期病院ではありませんので、新型コロナウイルスの患者さんは基本的には診断も治療もしません。その代わりにがんの専門病院という、その社会的使命を全うすべく今日までやってきました。しかし、新型コロナウイルスと全く関係なく病院運営を続けていくわけにはいきません。国内発生の当初から対策会議を原則週1回開催し、万が一入院患者さんが感染した場合の隔離病床の確保や、一般病棟との区分け、府の重症センターへの看護師派遣の他、感染予防対策などの情報を提供してきました。

新型コロナウイルスの最大の問題点は感染者の中に無症状から軽症者が多く、重症者は少ないが、急に重篤化し死亡することです。また、診断、予防、治療についてさまざまな方法が実施されましたが、問題はどれも完璧でないことです。例えば、ご指摘の多かった病院玄関での検温チェックですが、確かに発熱患者はチェックできますが、感染者の中には平熱の方もおられますし、外気温の影響を受けて検温器を通る際に発熱が検出されない可能性もあります。つまり、診断一つをとってみても感染者と非感染者を完全にふるい分ける方法がありません。ワクチンも然り、PCR検査も然りで100%のものはない。患者さんも当センター職員も自分の健康をきちんと管理し、自らを含めて誰でも感染リスクがあると見なし、手洗い、マスクの励行、三密を避けるなどの対策を徹底するしかないということです。ウイルスは身近に

あるものとして基本的な予防策を徹底することが何より大切であると思っています。

病院の機能を考えると多くの人が入り出りするのには仕方ありませんし、感染患者が来院することも防ぎようがありません。病院として大事なことは、感染患者が仮に当センターに入館したとしても、その滞在時間をできるだけ短くする対応です。そのためには、陽性と診断された場合の隔離病床の確保はもちろんのこと、当センターががんの専門病院である社会的使命をよく理解してもらい、転院などの配慮をお願いすることです。これは当センターが自らの使命を考えた上でのことで、新型コロナウイルスの受け入れ病院の理解と協力無くしては成り立ちません。幸い今までクラスターの発生などなく、無事に経過しております。この場をお借りして患者さんや新型コロナウイルスの受け入れ病院の皆さまのご理解とご協力に感謝しています。

昨今の科学の発達は目覚ましいものがあります。それに伴い、われわれが知っておかなければならない新しい概念や知見は50年前の何十倍にも増えました。またそれに伴い求められる業務も増加しました。一方、時代が進んでも、人間の能力自体はさほど変わりません。その結果、医療の現場では医療従事者は覚えることは多くなり、患者さんも、職員から説明され、理解しなければならないことが非常に多くなっています。パンフレットや動画作成など分かりやすくなるように工夫はしていますが、このままでは質を担保することは難しい状況です。この状況は医療従事者だけでなく、患者さんにとっても看過しがたいことです。これを解決する方法として新しくレジリエンスという概念が出てきました。それは今までのような、より掘り下げ、細部まで分析していく方法ではなく、現場の実情や関係性をもっと深く理解して、スマートに仕事をしようとする考え方です。つまり、医療現場ではある業務に多くの職種の人々がそれぞれのスケジュールに従って関与しますが、その関係性をよく理解して、安全で現実的、効率的な方法を考え出すというものです。より良い医療にはこれら2つのアプローチが必要です。またこれにより膨大なデータが整理され、集約化されます。その結果、われわれの仕事が効率化され、時間的余裕もできます。このようにして職員全体の時間的余裕を生み出し、職員一人ひとりが患者さんをおもひやる気持ちを大事にする病院にしていきたいと思っています。



病院長 左近 賢人

リハビリテーション科の紹介とがん口コモ対策

リハビリテーション科 部長 田宮 大也

◆リハビリテーション科について

がん患者さんは、がんの進行もしくはその治療の過程で、運動まひ、筋力低下、拘縮、しびれや神経障害性疼痛、四肢長管骨や脊椎の切迫骨折・病的骨折、リンパ浮腫、高次脳機能障害、発声障害、摂食嚥下障害などさまざまな機能障害が生じ、それらの障害によって起居動作や歩行、日常生活活動（ADL）、手段的日常生活活動（IADL）に制限を生じ、QOLの低下を来します。このため、がんのリハビリテーションでは治療前や治療直後から、機能回復に限らず患者さんのQOLや緩和期に関わる対応をしています。

リハ科は従来、整形外科に属する状態で存在していましたが、「がんのリハビリテーション」の対象疾患が多岐にわたることから、2013年に中央部門としてリハ科を設置し、各診療科医師からの依頼を受けて、専任（整形外科兼任）常駐医師が診察を行い、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）へ処方する体制に改善されました。

◆「がん口コモ」の取り組み

皆さんは「がん口コモ」をご存じでしょうか？「がん」と「口コモティブシンドローム」を組み合わせで作られた言葉ですが、がん治療を続けていく上では、とても重要な概念です。口コモティブシンドローム（運動器症候群）は、加齢と共に、骨や関節、筋肉など運動器の衰えが原因で、「立つ」「歩く」といった機能（移動機能）が低下していく状態をいいます。がん口コモは(1)骨転移(2)がん治療による影響(3)併存する運動器疾患の3つが原因と考えられます。1つ目の骨転移はがん患者の20-30%に発生。乳がん・肺がん・前立腺がんなどで多く、原発巣は問わず脊椎・骨盤・大腿骨などへの転移が多いとされています。2つ目のがんの治療による影響とは、運動器にがんが発生していても、入院が長期化し廃用性に筋力低下したり、がんの治療（化学療法や放射線療法など）によって、骨粗しょう症や末梢神経障害といった副作用が生じたりすることを指します。3つ目の併存する運動器疾患とは、もともと持っている運動器疾患など（変形性関節症、骨粗しょう症、腰部脊柱管狭窄症など）が原因で、運動器（骨・筋肉・関節・神経）に障害が起こり、動くことが困難になった状態を指します。これらの状態が進行すると、日常生活に支障

が生じ、要介護になるリスクが高まり、適切ながん治療を受けられなくなってしまいます。2019年6月に患者交流棟3Fに「ルネサンス運動支援センター」が開設されたことをきっかけに、協働して積極的に「がん患者さんに対する運動支援」に取り組んでいます。がん患者さんが最後まで自力で歩き、日常生活を送ることが、がん口コモ対策の目標です。

また2020年6月から始めた「口コモ度測定会」では、測定を希望される方の実に9割以上の方が口コモティブシンドロームに該当するという結果が示されており

ます。このような状況を受け、当センターでは以下の通り方針を定め「がん患者さんに対する運動支援」を行うこととしました。

- ★外来治療がメインとなった患者さんに対して、外部施設と連携を行い、リハビリ以上トレーニング未満の運動を提供することによってその予後改善や治療が円滑に進むように援助すること。
- ★また「がん患者さんにおける運動の効果」については「がんリスクを低下させる可能性」「廃用症候群*を予防し、身体・精神機能を維持・向上させる」ことから、大阪国際がんセンターとしては、「ルネサンス運動支援センター」とうまく連携して、患者さんに対して可能な限り運動を勧奨すること。

*安静状態が長期にわたって続くことによって起こる、さまざまな心身の機能低下等を指す。



形成外科は、再建外科と創傷外科のプロフェッショナルです

形成外科 主任部長 栗田 智之

当センターの形成外科は、総勢3名のメンバーで、がん治療に伴って生じた体のさまざまな欠損を修復（再建外科）したり、治りにくいキズを治す（創傷外科）手助けをしています。

がんそのものの治療を行う多数の診療科と連携して、チーム医療の一端を担っています。代表術式として、欠損部位に、別の部位から採取した組織を、手術用顕微鏡（写真背景参照）を用いて血管吻合を行い血流のある状態で移植する「遊離皮弁術」の分野では国内有数の症例数とレベルの高い治療成績を達成しています。

がん治療を受ける患者さんの視点に立ったときに、がんの根治と並んで重要なことは、治療によるダメージ（手術のキズや放射線、薬剤による侵襲を含む）から回復して、個々のレベルに応じた社会復帰ができることだと思います。外科治療を受ける患者さんにとっては当たり前、「普通にキズが治って普通の生活ができるようになって退院する」ことに対する最大の障害は「手術合併症」

です。例えば咽頭や食道を再建した後に孔が開く「瘻孔」ができてしまうと唾液や消化液が漏れてしまい、食事が摂れなくなるばかりか、予定外の長期入院、複数回の手術を余儀なくされ、周囲の大血管にダメージを与えて大出血する致死的合併症の危険が生じることもあります。当科では、手術合併症の大部分は術中に予防しうる、と考えてさまざまな対策を行っています。

手術は特定診療科の外科医だけでなく、専門分野を異にする診療科や、さまざまな職種全体の相互理解と協力のもとに成り立っています。患者さんに「大阪国際がんセンターで治療を受けてよかった」と言ってもらえるようチーム医療に尽力してまいります。



放射線診断・IVR科の紹介

放射線診断・IVR科 副部長 前田 登

IVR（Interventional Radiology）って何か、ご存知でしょうか？ X線やCT、超音波、MRIなどの画像診断装置で体の中を透かして見ながら、細い医療器具（カテーテルや針）を入れて、標的となる疾患の治療を行うことです。今日、画像機器や治療デバイス、薬剤の発達に伴って、日々進歩している分野の一つでもあります。当センターでも新技术を積極的に取り入れ、治療への実践を試みています。

IVRは、放射線診断技術を応用した治療なので、放射線診断科の中の一部門です。よって、実際には「IVR科」単独ではなく、「放射線診断・IVR科」の一部となっています。スタッフ（医師8名、診療放射線技師30名、看護師12名）も画像診断部門と共有していますが、日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師や日本IVR学会・CVIT合同認定インターベンションエキスパートナース等の有資格コメディカルにも支えられ、質の高い診療が行えています。

放射線診断・IVR科は、主に2室で治療を行っています。

す。IVR 1室には、IVR-CT装置も設置されていて、これらの装置を駆使し、微細な血管をカテーテルで選択して行う治療（血管内治療）や体表から細い針を刺して診断や治療（穿刺治療）を行っています。

IVRは単独の科で診療を行うことは少なく、基本的には他診療科からの依頼により行っていますので、常にさまざまな診療科とコミュニケーションをとりながら連携し、チーム医療としてがん診療体制構築に取り組んでいます。



「9時ミキシング（薬剤混和）点滴予約枠」について

外来化学療法科 部長 屋木 敏也

現在、外来では化学療法を受けられる患者さんの急増に伴い、外来化学療法室の予約が取りにくい状況が続いています。外来にて化学療法を受けられる患者さんの多くは、当日の採血（結果が出るまで約1時間）→採血結果に基づく主治医の診察→薬剤のミキシング（約1時間）→点滴開始の順番で進みますので、点滴開始が午前11時ごろに集中します。一方、9時～10時台は、点滴用の椅子が比較的空いている時間帯であり、この時間を有効に使用するために設けられたのが「9時ミキシング点滴予約枠」です。

薬剤のミキシングは、主治医による当日の診察前より行われます。主治医の診察予約枠は9時20分になり、診察後には点滴の準備がすでに完了しており、ほとんど待ち時間なく点滴を開始することが可能です。

現在、「9時ミキシング点滴予約枠」は、全ての化学療法に使用可能です。しかし、当日の採血結果が必要な場合は、時間がかかるため使用ができません。血液検査

が必要な場合は、前日（15時45分まで）に採血を受けていただき、併せて、体調の問診票の提出が必要になります。主治医は、前日の検査結果とこの問診票をチェックして、薬剤を診察前に混和する許可を出します。

これまで、「9時ミキシング点滴予約枠」をご利用いただいている患者さんからは、非常に良い評価を頂いております。特に1) 当日の採血検査を必要としない治療、2) 前日の採血目的のご来院を厭わない患者さんには、おすすめできる予約枠です。

ただし、この予約枠をご利用いただく患者さんに対して、一つだけ注意点があります。万一、急な体調不良のため、点滴が中止となった場合は、混和済みの高価な薬剤は廃棄されるため、病院に大きな損害が生じます。本予約枠を利用される患者さんは、急な体調不良が生じた場合や来院できない事情が生じた場合には、当日の主治医診察を待たずに、前日の夜間であっても当センターに連絡するようにしてください。

“フローズングローブ” “フローズンソックス” をご活用ください

外来化学療法科 看護師 村橋 奈緒

ドキシル・ドセタキセル・パクリタキセル・アブラキサンを用いた抗がん剤治療をされている患者さんは、フローズングローブ、フローズンソックスをご活用ください。以下の副作用が予防できます。

ドキシル

→手足症候群

ドセタキセル・パクリタキセル・アブラキサン

→四肢の末梢神経障害、爪障害

★ご使用に関しては主治医の許可が必要です

★予防効果には個人差があります



ご使用に際しては、綿の手袋の持参をお願いしています。



【セット方法】

- ①保冷材を準備します。
- ②足の甲と底にセットします。
- ③足首部分にもセットし完成。



乳癌術後放射線治療患者に対する 女性技師対応時間設定について

放射線腫瘍科 小宮山 里帆

女性専門外来を設ける病院も多くなってきている中、放射線腫瘍科では、2020年10月より乳癌術後放射線治療を受けられる患者さんに対して、女性の診療放射線技師が対応する時間帯を設けました。

放射線治療を受ける際、患者さんは上半身裸の状態です。位置合わせのため、技師が左右に立ち、マーカーで体に線を描いたり、背中に直接手を触れる事もあります。診療放射線技師は男性の割合が高く、羞恥心を感じる女性の患者さんも少なからずいるのではないかと考えられ、2020年の5月から8月にかけて乳癌術後放射線治療を受けた51人に患者さんが女性技師対応を希望しているのかどうか、アンケートを実施しました。結果は、治療中に対応するスタッフの性別について「二人とも女性が入ってほしい」6%、「一人は女性が入ってほしい」22%、「気になるが問題な

い」37%、「気にならない」35%でした。女性技師の対応を希望している患者さんが約3割であったことから、時間帯は15:00~16:00の6枠と限られていますが、女性技師対応枠を設けました。

10月からの3カ月間に10名の患者さんがこの枠を希望されました。このような取り組みによって患者さんがより満足して放射線治療を受けていただけることを期待しています。



今月もさまざまな個人や法人の方々から、貴重なご寄付をいただきました。ありがとうございます。この温かいお心遣いに感謝するとともに、このご厚意に報いるべく、これからも患者さんにより良い医療とサービスを提供してまいります。

新型コロナウイルス感染症対策 にかかる寄附

若井 利子（不織布マスク）、森ノ宮医療大学（サージカルマスク）

一般寄附

柳本 洪次、名尾 俊太郎、大田 謙一、柳田 榮、村橋 稜雄、久保 元治、船曳 真吾、野口 勝弘、野口 喜代美、諏訪 史郎、鳴尾 理絵、大萱 康江 匿名者 11名

敬称略・受領日順／ご希望者のみ掲載

2020年10月1日～

2021年1月31日

入院食への新たな取り組み～安心・安全な食材の提供～

栄養管理室 総括主査 谷口 祐子

当センターでは、以前から地産地消（大阪府で栽培された食材を入院食の食材として提供）を導入していましたが、今回新たな取り組みとして「栽培期間中は農薬を使わない野菜」を導入することになりました。

提供して下さる企業が、「株式会社舞洲フェルム」。企業理念に、「『作る喜び』『働く喜び』『生きる喜び』という限りない喜びの創造を行い、就労継続支援で障がい者の社会参加に貢献」を掲げ、障がい者の皆さんが水耕栽培で作っていただいている野菜です。

写真は、栽培されている野菜たち。丁寧に育てられており、そのまま食べることもできました。

また、栽培されている場所が大阪市此花区ということで、収穫して翌日には当センターに直接届けていただけ

ることになり鮮度も抜群です。

入院患者の皆さんには、3月中旬頃のお届けとなる予定です。



はい、こちら「がん相談支援センター」です

がん相談支援センター 島 沙也華

【file 002】

医療費が高額になるときは、どんな制度が利用できる？

がんの治療は高額になることもあり、「がんの治療には、どれくらいお金がかかるの？」というご相談をよくお受けすることがあります。

そんな時にまずご案内する制度として、「高額療養費制度」があります。

この制度は、ひと月（1日～月末）ごとの医療費の自己負担を軽くする制度で、病院や院外薬局などで支払う医療費が、一定額（自己負担限度額）を超えた場合に、加入している健康保険（以下保険者）に申請することで、その超えた金額があとから返ってくる制度です。

また、高額な医療費がかかることが事前に分かっている場合には、保険者に申請し「限度額適用認定証」の交

付を受けておくことで、病院などでの医療費の支払いを一定額にとどめることもできます。

この一定額（自己負担限度額）や手続きは、年齢、被保険者の収入、保険者によって異なります。また、対象は保険が有効な医療費のみで、食事代や差額ベッド代は含まれないので注意が必要です。

しかし、制度を事前に知っておくことで、不要な支払いを抑えたり、お金が返ってくることもありますので、ぜひ知っておいていただきたいと思います。

制度の詳細や手続きは、がん相談支援センターでご説明いたしますので、どうぞお気軽にご相談ください。

♥ 面談（対面での相談）

病院 1 階 ⑥窓口 相談支援センター受付でお申し出ください

相談受付時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）
午前 9 時～午後 5 時

♥がん相談ホットライン

☎ 06-6945-1870（直通）

電話対応時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）
午前 10 時～午後 4 時

掲載月日	メディア	テーマ等	出演者
10月6日	日経メディカル Online (Web)	緩和・支持・心のケア合同学術大会 2020 における学会レポート 「進行期・終末期の浮腫ケアのポイント」	リハビリテーション科 藤井 美希
10月14日	南日本新聞 (朝刊)	がん進行に特定化合物 仕組みの一部を解明	研究所 糖鎖オンコロジー部 チームリーダー 原田 陽一郎
10月24日	読売新聞 (夕刊)	大阪国際がんセンターが発見 食道がん口の粘膜異変 黒色白化毛細血管拡張	副院長補佐 石原 立 消化管内科 脇 幸太郎
10月26日	産経新聞 (夕刊) 「健康教室 がんを知る」	大阪国際がんセンターより 「感染を恐れず早期受診を」	頭頸部外科 主任部長 藤井 隆
10月26日	NHK 「関西のニュース」	口内粘膜で見る食道がんのリスク	副院長補佐 石原 立 消化管内科 脇 幸太郎
11月28日	朝日新聞	「がん新時代」放射線治療の現状について	放射線腫瘍科 副技師長 宮崎 正義
11月28日	NHK 「関西のニュース」	がんの進行を引き起こす物質が入っている ナノサイズの小さな袋を放出する仕組みを解明	研究所 糖鎖オンコロジー部 チームリーダー 原田 陽一郎
12月8日	フジテレビ 「Live News days」	GoTo 事業とコロナ感染リスクの関係を示す 調査について	がん対策センター 疫学統計部 副部長 田淵 貴大
12月8日	読売テレビ 「情報ライブ ミヤネ屋」		
12月8日	フジテレビ 「Live News イット！」		
12月14日	日本テレビ 「深層 NEWS」		
12月23日	朝日放送 「キャスト」・「ANN ニュース」		
1月2日	週刊 日本医事新報	「炉辺閑話 2021」新春特集内 新型コロナウイルス時代の公衆衛生学のすゝめ	がん対策センター 疫学統計部 副部長 田淵 貴大
1月3日	朝日新聞 医療サイト 「アピタル」	AYA 世代サポートチームおよび AYA 世代がんサバイバーの取り組み	血液内科 診療主任 多田 雄真
1月3日	毎日放送 「リーダー」 および 「映像 21」	免疫チェックポイント阻害薬の適応拡大状況について	薬局
1月19日	毎日放送 「News ミント！」	看護の教育現場への新型コロナの影響について	看護部
1月20日	NHK スポーツストーリー	胚細胞性腫瘍の解説	泌尿器科 副部長 垣本 健一

oici だより 2021年早春号



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター

発行 大阪国際がんセンター

編集 事務局 総務・広報グループ

〒541-8567

大阪市中央区大手前 3-1-69

TEL.06-6945-1181 (代表)

2021年2月発行



oici
https://oici.jp/

検索



@oici.jp



※ QR コードは (株) デンソーウェーブの登録商標です。

◆ 電車でご来院の場合

地下鉄「谷町四丁目駅」北改札口から所要時間 徒歩約 5 分

◆ お車でご来院の場合

東大阪線「法円坂出口」より約 5 分 / 東大阪線「森之宮出口」より約 8 分